

# HATAKE DAYORI

No.  
14  
2022 夏

発行

NPO法人  
みんなのプロジェクト

人と人がつながり、思いやりをはぐくむ共助社会をつくる



column

出会う・つながる・学び合う

support

みんなプロジェクト

Photo

日常の風景

event

Report

event

## REPORT 各イベントやニュースなど情報をお届けします。

2022年7月23日(土)、ともてらす早良ホール(福岡市早良南地域交流センター)において、「前田英樹ピアノコンサート」が開催されました。「コロナ感染拡大第七波」の真ただ中となり、300人収容可能な広い会場でしたが、はたけのいえの住人とお母さん方やスタッフのみという、何とも贅沢なひと時となりました。

今回のコンサートは、昨年12月にテレビ放映されたNHKの「目撃につぼん」を視聴された前田さんが、「是非ともみなさんに、ピアノの音色を届けたい！」と直接にオファーがあり、旅費宿泊の全てボランティアという形で、遠い秋田から福岡まで来て下さって実現したコンサートでした。バッハ、モーツァルト、ショパン、ベートーヴェン、シューマン等のピアノが響き渡ると、会場の全員がその曲の情景に引き込まれていました。



前田さん、本当にありがとうございました！！

人と人がつながり、思いやりをはぐくむ共助社会をつくる

## HATAKE No.14 DAYORI 2022 夏

発行日 2022年 8月 1日 発行元 NPO法人みんなのプロジェクト

〒814-0172 福岡市早良区梅林6-23-3 TEL:092-874-3051 FAX:092-874-3052

H P:<https://minnanoproject.org> メール:[hatakenoie2020@gmail.com](mailto:hatakenoie2020@gmail.com)



support

みんなで  
Minnade

プロジェクト  
Project

サポーター会員  
募集中！！

新規サポーター会員登録

西頭 京子様、浜崎 裕子様

ご寄付をいただきました

吉村 正信様、松崎 淳子様、小材 純子様、斎藤美津恵様、  
木下 康子様、安東 昭子様、三上 梓様、小川 達也様、  
浜崎 裕子様、奥田 篤行様、江口 陽子様、倉光登紀子様、  
堀川 久美様、内田 善雄様、かたえキリスト教会様

みなさまの応援を  
心から感謝します！

【振込み先】

ゆうちょ銀行 店名：七四八

記号：17440

口座番号：89850401

口座名義：トクヒ ミンナプロジェクト

Photo

## 日常の風景



column 出会う つながる 学び合う



「余白から生まれるもの」

水野英尚

NPO法人みんなのプロジェクトの事業として、4月よりスタートした「ヘルパーステーションこもんず」では、「はたけのいえ」で暮らし4人の住人たちに、「重度訪問介護」による支援提供を中心に行っています。この制度は、常に介護が必要な方が「一人暮らし」等の際に、長時間（最長24H/日）の支援が可能で、食事や入浴、排泄等の身体介護や調理や洗濯、掃除等の家事援助、生活での相談や助言、外出時の介護（但し、就労や学業での支援は不可）まで、生活全般の支援を包括的に可能としているものです。そして、「見守り」という行為も、身体介護や家事援助と同等の支援として認められています。

2000年に導入された「介護保険」によって、それまでの家族による「介護奉仕」から専門職による「介護労働」が成立するようになりました。障害福祉もそれに追従して、制度化（支援費制度）され、介護の内容・入浴支援なら1時間、食事の調理なら30分等）が時間枠によって単価設定されました。そうした中、介護内容での「見守り」は、介助者が「何もしていない」とされ労働とは認められず、現在においても身体介護や家事援助の支援枠では、ヘルパーによる「見守り」はできないことになっています。生活のスポット的な支援なら、それで良いとるのでしようが、生活全体の支援となれば、「見守り」という行為はなくてはならない支援形態となります。

日常生活での入浴、食事、排泄、調理、洗濯、掃除等々の支援は、当事者が暮らし続けていく上で当然必要なものです。しかし、当然それだけで全てではありません。生活の中にはそうした内容で括れない時間（物思いにふける・何かを鑑賞する等）、つまり「余白」のような時間の中にも必要な支援があります。そうした支援を重度訪問介護は、「見守り」という形で可能にしたのは非常に大切で意味のあることです。

はたけのいえでの現在の暮らしは、重い障がいのある方たちが生活の主体となって、自分たちの日々の生活のあり方を再構築しながら、「こんなこと」や「あんなこと」を地域の中で体験していこうと試みています。それは、支援者と共に協働でつくり上げられるのですが、その時大切なのがこの「余白」という時間を、いかに当事者たちとシンクロして過ごせるかどうかということとで、互いに良い関係を築けているかどうかが見えてくるものです。ですから、「見守り」という行為は、本来は「何もしていない」ということなく、双方の関係をより円滑にしていくなかで、潤滑油のような大切な時間と言えらるのだと思います。私たちがいつしか管理されることや指示されることに慣れるあまり、他者と一緒に「余白」を過ごすことを苦手とし、知らず知らず「計画」を押し付けてしまいう事がないでしょうか。

しかし、彼（女）たちの声にならない声に耳をすまし、その内に秘めた想いを感じつつ同じ時間を過ごしていると、自らを縛りつけていたものから解放される感覚を覚えます。そこから、互いの関係性が深まり、言葉のない相手の想いが伝わる瞬間に出会えるのだと思います。

「自由空間こもん」(福岡市早良区梅林6丁目23番3号)

「ヘルパーさんと外出した時、ゆっくりとくつろげる空間があったら・・・」「吸引等の医療的ケアがあっても、気兼ねなく参加できる教室があったら・・・」そんな「フリー」な空間を提供したいと考えています。

「福祉運送みちくさ」

「車イスやバギーでバスや地下鉄等の公共交通機関は、利用づらい・・・」「タクシーでは料金的にキツイ・・・」そんな外出での課題解決に、福祉有償運送をはじめます。

詳しくお知りになりたい方は、お気軽にどうぞ！

電話：092-874-3051(水野)

